

会 議 要 旨

会議名称	令和3年度第2回加古川市環境市民会議
開催日時	令和3年10月13日（水）午前10時30分から11時45分まで
開催場所	加古川市役所 新館10階 大会議室
出席者	<p><委員>（出席者：15名）（敬称略、順不同）</p> <p>加古川市消費者協会：八代 醍 グループめだか：守家 はりまシェアリングネイチャーの会：石田 播磨ぼかし研究会：石堂 前川建設株式会社 専務取締役：前川 水辺に学ぶプロジェクト：畠山 行常しあわせの森づくり協議会：藤本 大阪ガス株式会社ネットワークカンパニー兵庫導管部地域コミュニティ室：池部 加古川市環境保全研究会：安東 関西電力送配電株式会社兵庫支社：五反田 兵庫県地球温暖化防止活動推進センター：金谷 兵庫県農政環境部環境管理局温暖化対策課：上西 兵庫県立農業高等学校農業環境工学科：小林 加古川市環境部：新濱 特定非営利活動法人気候ネットワーク：豊田</p> <p><事務局>（出席者：6名）</p> <p>加古川市環境部環境政策課 西村、藤本、山中、山田、高橋、神田</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> （1）加古川市の温室効果ガス排出量について （2）令和2年度加古川市の施策取組実績について 4 その他 5 閉会
配付資料	<p>資料1 加古川市環境市民会議委員名簿</p> <p>資料2 加古川市の温室効果ガス排出量について</p> <p>資料3 環境の概要（令和3年度版）</p> <p>資料4 令和2年度環境教育・啓発の実施結果</p>

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）

<p>(会長)</p>	<p>1 開会 2 会長挨拶 3 報告事項</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(1) 加古川市の温室効果ガス排出量について ※エネルギー管理指定工場を除外して算定 ①2017年度の温室効果ガス総排出量（2005年度比） ・排出係数変動の場合、温室効果ガス総排出量は4.6%の削減。 ・排出係数固定の場合、温室効果ガス総排出量は12.3%の削減。 ②削減目標の達成状況（2005年度比） 2020年度までに6%削減という目標に対して、4.6%削減と目標を達成していないが、排出係数を固定した場合は、12.3%削減しており、目標を達成した。 ③2017年度の部門別二酸化炭素排出量（2016年度比） 民生家庭部門、民生業務部門、運輸部門の排出量は削減し、産業部門では増加した。</p>
<p>(委員)</p>	<p>国や兵庫県では、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを表明しているが、加古川市においても、ゼロカーボンシティを目指すための目標や取組はあるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>第3次加古川市環境基本計画では26%削減を掲げているが、国や県では目標が高められている。加古川市でも、国や県の目標に近づけるような取組を検討していく。</p>
<p>(会長)</p>	<p>地方公共団体に対して、何か良いアイデアがあれば教えてほしい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>いつまでに、どれだけ二酸化炭素を排出することで、どれだけ温度が上がるのかという、カーボンバジェットの考え方が非常に重要である。2050年はまだ先に感じるが、その中間段階の2030年までにどれだけ削減できるかで、温度の上がり方が決まる。古い家電や自動車は新型に比べると、圧倒的に二酸化炭素の排出量が多い。特に建物については、今断熱性能が低いものを建てると、後40年間効率悪く二酸化炭素を排出し続ける。できれば、市ではストップ対策（二酸化炭素を出すものを固定化させない）を行い、いち早く効率の良いものに変えることを促すことが必要である。また、再生可能エネルギーをどれだけ導入できるかも重要で、自家消費型太陽光が注目されている。企業等の建物に太陽光を設置し、直接電力を消費することで、再エネ100%の企業であることを訴えることができる。企業におけるRE100の取組が広がり始めており、加古川市でも、それを支援していくことができれば良い。</p>

(会長)	関西電力と大阪ガスで、何か取組があれば教えてほしい。
(委員)	関西電力では、水素発電について、検証や実証を進めていく。
(委員)	大阪ガスでは、昨年末に「2050年にカーボンニュートラルの実現」を発表している。二酸化炭素と水素から都市ガスの主成分であるメタンを合成する、「メタネーション」に力を入れており、取り入れることで、カーボンニュートラルになる。また、既存のガス導管や供給機器、設備を引き続き使用しながら脱炭素化を行える。この取組を進め、技術革新をして、2050年にはカーボンフリーにしていきたい。
(委員)	他市の水道事業で、水の電気分解を利用して、水素を生成しているところがある。参考にされたい。
(事務局)	参考にさせていただく。
(委員)	食品ロスの削減を提案したい。持続可能な開発目標（SDGs）の一つとして、一人当たりの食糧廃棄を減らすという目標があるが、できるところから始めるのが良い。
(会長)	加古川市で食品ロスについて取組はあるか。
(事務局)	フードドライブについて、コープこうべやNPO法人と取り組んでいくことを検討している。
(委員)	排出量の算定について、他の市町村で独自計算しているところは、2019年度が出てきている。加古川市では、兵庫県のデータを按分しているから、2017年確報値、2018年速報値が最新になるのか。
(事務局)	その通りである。兵庫県の数値が確定しないと、加古川市の数値も確定しない。
(会長)	2019年度の結果が出ている自治体というのは、県の算定期より早く出ているということか。
(委員)	独自でデータを集めて、計算をしているところは、早く結果が出る。古いデータに関しては、前年度統計を使用して調整している。二酸化炭素排出量を見通すことができるのと、対策を考えやすい。
(委員)	指定ごみ袋の価格だが、大容量の50枚入りになると、30Lよりも45Lの方が安くなる。ごみ減量のため、小さい袋を使用したいと思うので、30Lの方が安くなるよ

	う検討されたい。
(事務局)	市で価格を指定するのではなく、自由競争にした方が、市民により安く買ってもらえる。30Lと45Lのごみ袋の価格については、メーカーが売れ筋を判断し、値段設定している。今後、30Lの需要が増えると、変更があるかもしれない。
(事務局)	(2) 令和2年度加古川市の施策取組実績について <ul style="list-style-type: none"> ・実施状況写真を用いて、環境教育・啓発の取組結果の報告。 ・「環境の概要」を用いて、環境配慮率先実行計画の結果の報告。
(会長)	エコドライブは今年もやっているのか。また、のぼり等の掲示は、加古川市の施設だけで行っているのか。
(事務局)	今年も行っている。市の庁舎だけでなく、各イベントでものぼりを立てたり、啓発グッズを配布したりしている。
(会長)	企業等に呼びかけるのも良いのではないかと。他部署に関する事なので、難しいかもしれないが、エコドライブの啓発に取り組むと、市の発注に有利になる制度を作るなど、検討してほしい。
(会長)	他に何かしていることがあれば教えてほしい。
(委員)	コロナ禍における環境学習は、オンラインで授業を支援している。他にも、動画やガイドラインを提供し、授業で活用してもらっている。主催のイベントは、オンラインがほとんどだが、参加者は、コロナ前より大幅に増加している。むしろ、地域外の方が、気軽に参加できるようになった。COPの報告会の参加者は、1,000人を超え、通常のオンラインセミナーでも、200人以上の申込がある状況である。子供向けのキッズセミナーも、オンラインで行っているが、海外の方も申し込みをしている。オンラインを使用すると、今まで参加できなかった方にも参加してもらえるので、加古川市でも、新しいチャレンジとして行っていくのが良いと思う。
(会長)	委員が行っているイベントに、加古川市が参加するのも可能になるということになる。参考にして、是非取り入れてほしい。当社も、インターンシップはオンラインで行っており、大学でも、オンライン授業が普通になっている。他市も含めた、オンラインイベントの開催等、是非検討してほしい。
(委員)	加古川市の電力の入札について、一括なのか、施設ごとなのか。明石市が、電力一括調達で、電気の使用量が、年間1億6600万円の削減になっている。

<p>(事務局)</p>	<p>加古川市の契約先は様々である。教育委員会や水道局は、それぞれで契約している。ただし、排出係数が少なく、環境への取組を進めている所との契約を市の条件としている。その中でも、環境配慮の状況を点数化しており、合格点を取ったところを入札し、契約している。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--------------	--